

2 学習指導案作成のポイント(道徳編)

道徳の時間における学習指導案は、教師が年間指導計画に位置づけられたそれぞれの主題を指導するに当たって、児童や学級の実態に即して、教師自身の個性を生かして作成する指導計画です。主題のねらいを達成するために、何をどのような順序、方法で指導し、評価し、さらに指導に生かすのかなどの構想が明らかになることが大切です。

主題について

第 学年 組 道徳学習指導案(例)

- 1 主題名 [- ()]
- 2 資料名 「 (出典:)
- 3 主題設定の理由

原則として年間指導計画における主題名を記述する。

(児童生徒の実態について)
 ・内容項目に照らし合わせた児童生徒の実態(長所および課題)
 ・期待する児童生徒の姿
 ・今までの他の教科等での指導との関連

(ねらいとする価値について)
 ・ねらいとする内容項目の意義
 ・内容項目に対する教師の基本的な考え方
 ・社会から要請されている今日的な課題

(指導・資料について)
 ・資料の概要や取りあげた意図
 ・活用のポイント
 ・児童生徒の実態を踏まえた指導の具体的な方策
 ・研究内容を踏まえた指導の具体的な方策

- 4 ねらい
 (主人公)の・・・を通して、・・・しようとする・・・を育てる。
 (資料の活用を簡潔に) (内容項目から) (道徳性の諸様相を)

道徳的心情、判断力、実践意欲と態度

- 5 準備物
- 6 本時の展開(例)



	学習活動(主な発問と予想される児童の反応)	指導上の留意点及び評価の観点
導入	主題に対する児童生徒の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の自覚に向けて動機付け(方向付け)を図ります。	児童生徒が問題意識をもって学習に臨むための準備をします。
展開前段	中心的な資料によって、児童生徒の一人一人がねらいとする道徳的価値について自覚を深められるようにします。	発問を精選し、児童生徒が多様な感じ方や考え方を出し合い、学び合うことができるようにします。
後段	資料をもとに話し合ったことを、自分自身のこととして問い直します。	〔評価について〕 ねらいと照らし合わせながら、教師の共感的な児童生徒理解に基づく評価を指導に生かすようにします。
終末	ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめ、今後につなぎます。	導入との内容の重なりには留意しながら、広がりある終末を心がけます。

などを用いて表記するとわかりやすくなります。

道徳の時間の学習指導過程は、上記のように、導入、展開、終末の段階を設定することが広く行われています。これを基本形としながら、いたずらに固定化、形式化することなく弾力的に扱うなどの工夫をしていくことも大切です。
 吟味された資料をもとに、一人一人が生かせる学習指導過程を構想しましょう。